

大阪学院大学大学院経済学研究科
理論経済学 A (ミクロ経済学)
テスト問題 (平成 11 年度)

2000 年 1 月
鬼木 甫

下記の設問 II～IV のすべてに解答せよ。なお、設問 I は例示であり、解答例を示す。

設問 I～IV のそれぞれは、A と B から構成される。A では、何らか特定の「経済事象、経済活動」が記述されており、また B では、ミクロ経済学で使用されるグラフ (図形) 名が指定されている。

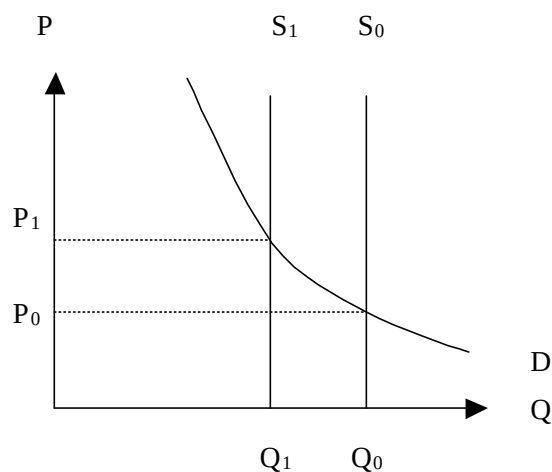
II～IV のそれぞれについて、A の記述内容を、B で指定されたグラフを使って表現し、グラフを読むために必要であればそれに簡単な説明を与えよ。下記 I の設問・解答例を参考にせよ。

I (例) :

A. 「本年は台風のため、昨年よりも米 (こめ) の作柄が大幅に低下した。その結果、国内米価は平均して上昇した。」

B. 需要・供給曲線のグラフ

I への解答 (例) :



記号説明：

添字 0：昨年、1：本年

Q：米の生産量（トン／年）

P：国内米価（円／トン）

D：米の需要曲線

S：米の供給曲線

グラフ説明：

本年の米の作柄の悪化は S 曲線の左方シフト ($Q_0 \rightarrow Q_1$) であらわされるので、均衡米価は ($P_0 \rightarrow P_1$) 上昇した。

〈ここから以降がテスト用設問〉

設問Ⅱ（35%）：

A. 「本年は台風のため、昨年よりも米（こめ）の作柄が大幅に低下した。その結果、国内米価の上昇が予想されたので、政府はこれまでとってきた米の輸入禁止を緩和し、昨年と比較した本年の収穫減少分だけ、商社による米の輸入と、昨年と同一水準の価格での輸入米の国内販売を認めた。ただし米の輸入価格は昨年の国内米価の半額であった。上記政策により、消費者、生産者、商社の余剰は、昨年、本年（輸入禁止を続けた場合）、本年（輸入をみとめた場合）で相違することになる。」

B. 需要・供給曲線のグラフ

設問Ⅲ（35%）：

A. 「コンピュータ・ソフト業界の雄である M 社は、W ソフトの供給で知られている。W ソフトは、CD-ROM へのコピーによって容易に増産できるので、その平均費用・限界費用は逡減的（減少的、右下がり）であり、他社が同一水準の技術を持っても価格面で対抗できない。その結果 M 社は、W ソフトの独占供給体制を確立した（ここまですべてを A1 とする）。M 社は、独占供給体制のもとで、利潤最大化を実現する価格で W ソフトを販売しており、その結果、経済社会全体の総余剰を減少させる効果をもたらしている（ここまですべてを A2 とする）。」

B. A1 部分：平均費用・限界費用のグラフ

A2 部分：上記に需要曲線を加えたグラフ

設問Ⅳ（30%）：

- A. 「1980 年代後半のバブル期において、預金利率は年 5%程度であり、平均貯蓄率は所得の 15%程度であった。平成不況期に入って、所得自体に大きな変化は生じていないが、将来への不安が増大し、予想される将来所得が大幅に低下した。そのため、預金利率が実質上ゼロ水準に下がっているのに、人々は依然として所得の 15%強を貯蓄して将来に備えようとしており、消費の低迷が続いている。」
- B. 現在消費と将来消費に関する無差別曲線のグラフ